

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立大垣商業高等学校 学校番号 26

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 知・徳・体の調和のとれた豊かな心と健やかな体の育成 (2) 地域、家庭、学校の連携協力による明るく、活力ある、地域社会人の育成	
2 評価する領域・分野	◇学校経営・運営	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	「学校はICTを活用した学習活動や協働的な学びの機会が設けられており、オンライン等での学習支援などがあり、それらが学習の理解につながっている。」保護者73%、生徒87%が該当すると回答している。 「学校は新型コロナウイルス感染症対策を最優先に捉え、適切に学校行事等を計画している。」保護者82%、生徒92%が該当すると回答している。 - 生徒の94%が、「本校に入学できてよかったと思っている」と回答している。これは、生徒自らが目標（資格取得、部活動等）や課題をもち、何事にも積極的に挑戦する姿勢が身に付いてきている結果の表れであると捉えている。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇学校運営及び教育活動などに関して、学校運営協議会、連携企業・大学等及び保護者と連携を図り、外部からの意見等を適切に聴取する。また、外部への情報発信も行う。 ◇地域社会への還元や参画等といった社会貢献や地域創生に係る取組を、本校の特色ある学校づくりの一つとしてさらに推進していく。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	- 大学や地元産業界との連携をさらに強化し、地域に根差した特色ある学校づくりを推進するために専門教育推進部が中心となり地域産業の担い手協議会を通して、委員からの意見や要望等を聴取する。 - 各分掌長が中心となり、学校運営協議会等により、学校経営や運営に関する意見や要望等を聴取する。 - ICT推進チームと教務部が中心となり、ICTを活用した授業改善や学習機会の確保に努める。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 外部人材による教育力を活用した「ふるさと教育」等の取組 (2) 学校運営協議会等において意見や要望等を聴取する機会の設定	(1) 生徒の取組満足度と生徒による自己評価 (2) 協議会等における意見・要望事項を踏まえた実践	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
(1) コロナ禍ではあるが、学科や教科の学びを深めるために外部人材を活用した課題研究等の取組を実施した。 (2) 学校運営協議会等において、本校として育成すべき生徒像等について示唆を受けた。	(1) 外部人材を十分に活用し、活力ある学校づくりの推進につながっているか。 (2) 各外部委員から学校経営や運営にかかる意見や要望等を聴取できているか。	A B C D A B C D
11 成果・課題	○地元企業等との連携を重ね、ふるさと教育の充実を図ることができている。その結果として生徒が実践的かつ課題探求型の学びの経験を得ることができた。 ○ICTを活用した授業改善や学習機会の確保に加え、校務のICT化も進んでいる。 ▲県指定事業「地域産業の担い手育成総合戦略事業」が、本年度をもって終了するが、事業で得られた成果を次年度も継続していく。 ▲授業や校務等を効果的・効率的となるよう、ICTの活用をさらに推進する。	
12 来年度に向けての改善方策案	・地域の産業界等から、ビジネスで求められる資質・能力、業界の現状に関する聞き取りや、生徒向けの講演、企業見学などを行い、生徒に専門教育を学ぶ意義を理解させ、地域をフィールドとした実践的・体験的な学びにつなげる。 ・授業や校務の効率化を図るため、校内ICT推進チームによる教員研修の内容を充実させる。	

総合評価

A B C D

Ⅱ 学校関係者評価

実施年月日：令和5年1月25日

【意見・要望・評価等】

- ・ A I などに代表されるデジタル化の進む世の中の流れに対応しており、毎年学校が進歩していると感じた。また、地域で気持ちの良い挨拶をしてくれる生徒の姿から、人とのつながりを大切にする学校だと感じている。
- ・ 外部評価の結果を見ると、本校へ入学でき良かったと思っている生徒の割合をはじめ、生徒からの評価は高い。この年頃の生徒は、学校のことを家庭であまり話さないので、家庭でコミュニケーションをとれるような仕組みを考える必要がある。メールやホームページによる情報発信に加え、LINEの活用を検討してはどうか。